



神田外語大学

IR年次報告書 2019/2020 速報版

2019 & 2020 Bulletin version Annual Report of the Office of Institutional Research

神田外語大学は、学生の学修成果を把握し、エビデンスに基づくPDCAサイクルを強化するために、教育アセスメントとして2016年度から大学IRコンソーシアム加盟校共通の「学生アンケート」を毎年行っています。2019・2020年度は、「学部在学学生アンケート調査」、「卒業時アンケート調査」、「卒業生アンケート調査（既卒生対象）」を実施いたしました。

本報告書では、これらアンケートの分析結果（抜粋）とともに、MJIR（大学情報・機関調査研究会）での発表論文の要旨をご紹介します。



学生アンケート集計結果
— 2017・2018・2019・2020/速報版 —（抜粋）

卒業時アンケート 2019
集計結果（抜粋）



卒業生アンケート 2019
集計結果（抜粋）

大学情報・機関調査研究会
(MJIR) 発表要旨



IR推進室⇒学長室 IR推進
チーム主な活動記録
(2019年度)

IR (Institutional Research) とは「客観的なデータ分析に基づいた大学における諸活動の効果検証及び、情報提供を通じた大学の意思決定又は業務の継続的改善を支援すること」(山形大学次世代形成・評価開発機構 IR 部門 Web サイトより) です。大学のなかで行われている様々な活動を客観的データに基づいて分析し、データと分析結果を共有することで大学のPDCAサイクルを強化し、業務の改善につなげていく活動です。

学生アンケート集計結果 —2017・2018・2019・2020/速報版— (抜粋)





●本学における共通学生アンケート実施状況



対 象 : 学部在学生

調 査 方 法 : 調査方法 : グーグルフォームを利用した Web アンケート

回答所要時間 : 約 18~20 分

内 容 : IR コンソーシアム共通の項目に、喫煙の有無や留学関係について、本学独自項目を追加
(授業経験、学習態度、週当たりの学習時間、入学後の能力変化、英語運用能力、大学生活への適応、大学教育・施設への満足度等を調べる間接アセスメント調査)

実施年度	2020 年度		2019 年度	
実施期間	9/11~11/4		9/12~11/1	
対象者数	4,160		4,170	
回答数	1,357		1,260	
回答率	32.6%		30.2%	
集計結果 URL	1 年生結果 https://bit.ly/36kdAqi 上級生(2~4 年生)結果 https://bit.ly/3n9EBUa		1 年生結果 http://bit.ly/2ShUZnG 上級生(2~4 年生)結果 http://bit.ly/2H1yAG1	
集計結果 QRコード	1 年生結果 	上級生(2~4 年生)結果 	1 年生結果 	上級生(2~4 年生)結果 

実施年度	2018 年度		2017 年度	
実施期間	9/13~10/31		9/13~10/31	
対象者数	4,008		3,949	
回答数	863		1,260	
回答率	21.5%		31.9%	
集計結果 URL	http://bit.ly/2H8VcVP		https://goo.gl/CWgthr	
集計結果 QRコード				

●大学 IR コンソーシアムについて

大学 IR コンソーシアム（以下、「コンソーシアム」）は、平成 21 年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」(GP) に採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立 4 大学 IR ネットワーク」を基盤として、同プログラムの代表校である同志社大学、連携校の北海道大学、大阪府立大学、甲南大学が中心となって、2011 年度にコンソーシアム設置準備委員会を組織し、2012 年 9 月 25 日に正式に発足した組織です。現在では、全国の国公立 60 大学が加盟しています。

コンソーシアムでは、教学評価体制の基幹をなす IR ネットワークシステムの運営を行い、情報の一元管理、個別の大学での教育効果の測定および学生調査による連携大学間での「相互評価」の機能や機会を会員校に提供しています。

●共通学生アンケート調査について

共通学生アンケートは、大学 IR コンソーシアムが「学生調査」として設計したもので、授業経験や学習行動、知識・能力の獲得状況、英語運用能力のレベル、大学教育に対する満足度といった学生の認知的・情緒的側面を重視した調査項目で構成されています。大学 IR コンソーシアム会員校が共通のアンケートを継続して実施することで、学生調査の結果を大学 IR コンソーシアム会員校全体と比較でき、各大学の特徴（強み、弱み）を見出すことができます。

なお、本学では共通学生アンケートに独自項目を追加し、Web による回答で実施しています。

学生アンケート2019実施中

KUISでの学生生活をより良くするための
学生アンケートを2016年から実施しています。
ぜひご協力ください。

昨年度は863人から回答があり、
寄せられた声をもとに、学内施設の改善などを行いました。



トイレの改修



WiFi 速度向上





回答者の中から
抽選で55名の方に
1,000円相当のギフト券を
プレゼント!



ダンススクエア
屋根の補修

回答方法

該当するQRコードを読み取り、Googleフォームで回答。

※KUIS メールにもお送りしています。
※回答するときは KUIS アカウント(学籍番号@kuis.ac.jp)へのログインが必要です。

1年生用



<https://bit.ly/2RXKcok>

2~4年生用



<https://bit.ly/2NDvWb0>

神田外語大学 学生課・教務課・IR推進室

学生アンケート2019実施中

KUISでの学生生活をより良くするための学生アンケートを2016年から実施しています。
回答にかかる時間は20分ぐらいです。ぜひご協力ください。

1年生用



Google フォームでの Web 回答です。
該当するQRコードを読み取り
アクセスしてください。

※回答するときは KUIS アカウント(学籍番号@kuis.ac.jp)への
ログインが必要です。

2~4年生用



回答者の中から抽選で55名の方に1,000円相当のギフト券をプレゼント

↑図書館、SALC、MULC、メディアプラザ、学生食堂
にステッカーを貼って回答を促進しました。

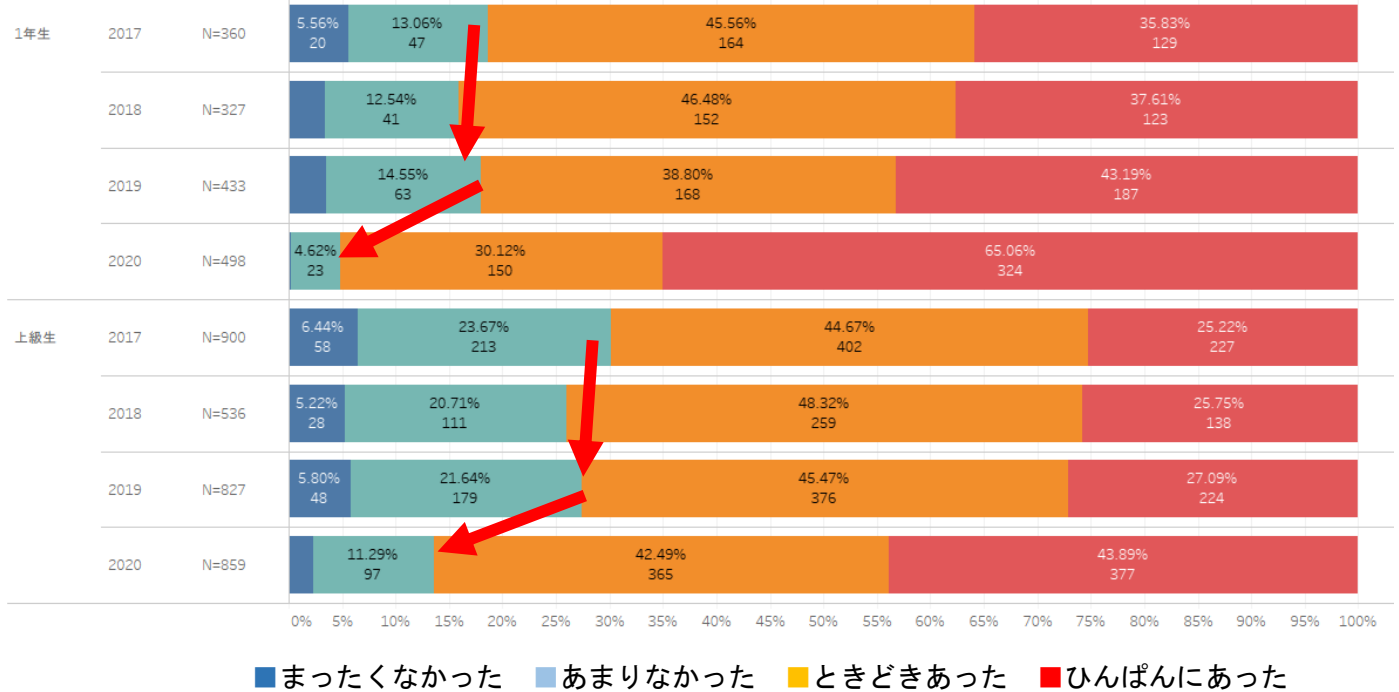
←学内にポスターを貼ってアンケート実施を周知し
ました。

(2019 年度は、新たな施策として、先生から授業の
ときに、チラシを配布して、周知しましたところ、
チラシ配布後に、回答数が躍進しました。)

● 共通学生アンケートの集計結果 — 2017・2018・2019・2020/速報版 — (抜粋)

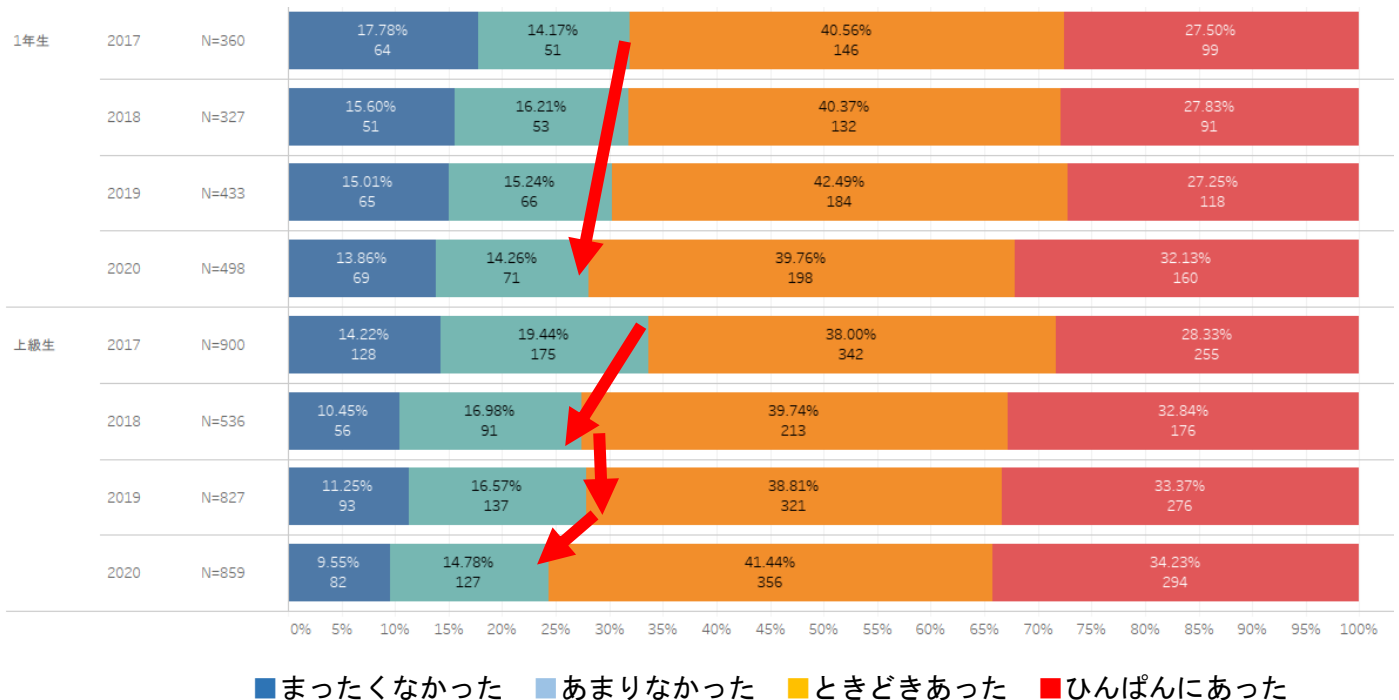
授業経験：教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

⇒2017年から2019年は同じ傾向。2019年から2020年にかけては増加傾向。



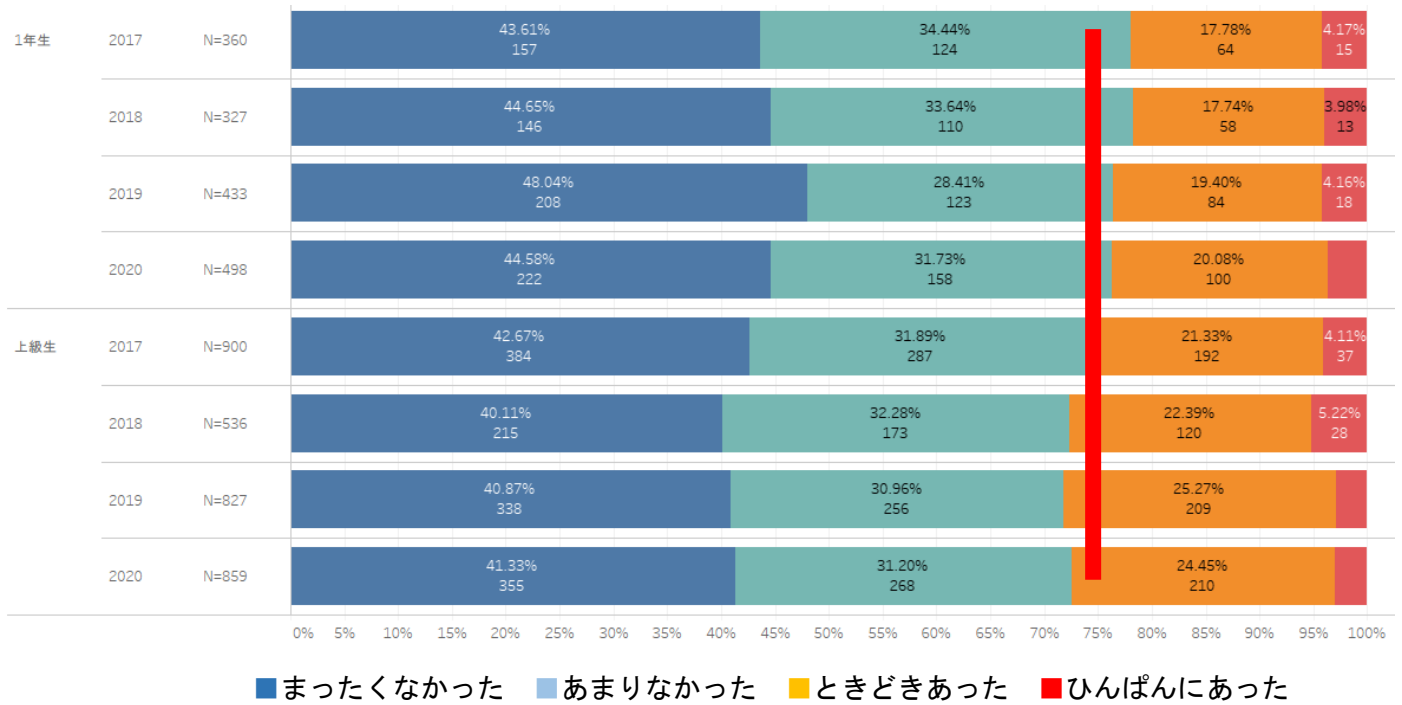
授業経験：取りたい授業を履修登録できなかった

⇒1年生は2017年から2020年にかけてはゆるやかな増加傾向。上級生(2~4年生)は2017年から2018年は急な増加傾向。2018年から2019年は微減。2019年から2020年は再び増加傾向。



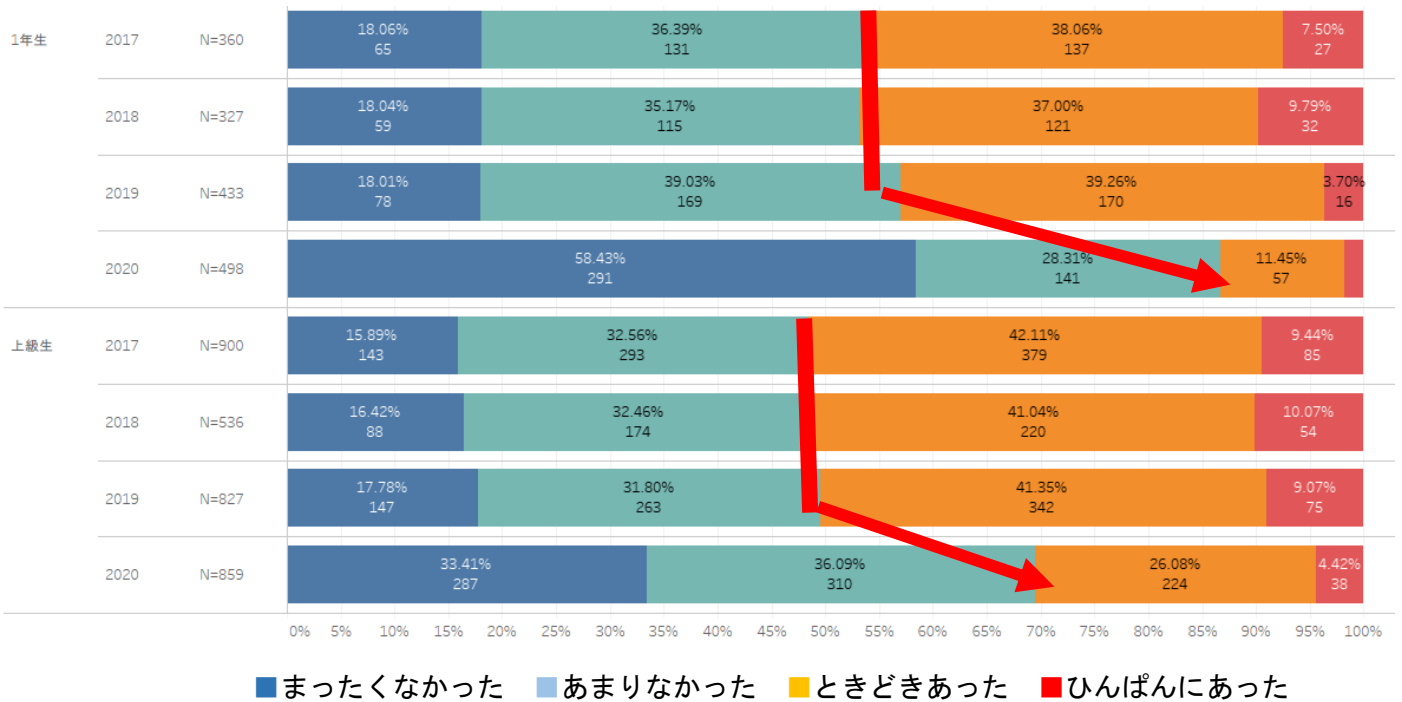
学習態度：提出期限までに授業課題を完成できなかった

⇒レファレンスラインの75%前後の学生が、例年通り提出期限までに課題を出せていた。



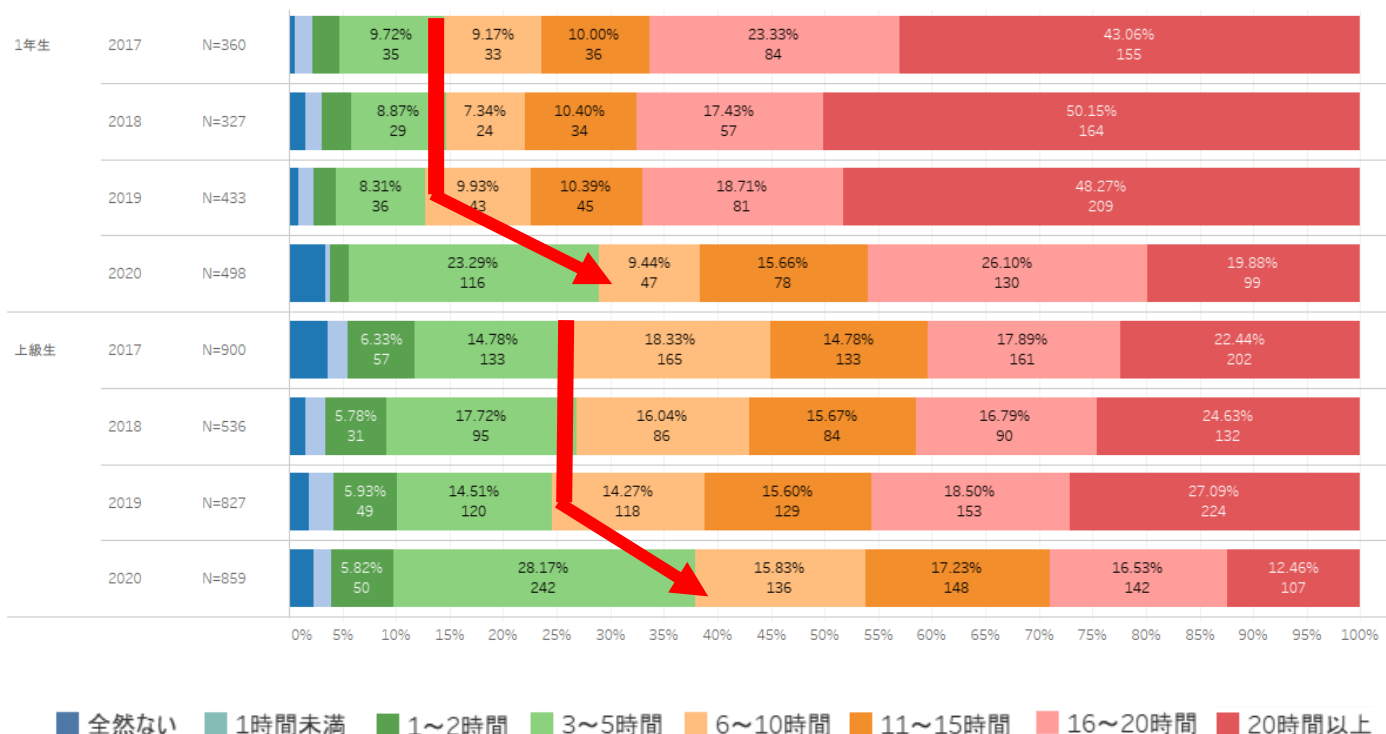
学習態度：授業中に居眠りをした

⇒1年生、上級生共に、2017年～2019年までは同じ傾向。2019年から2020年は授業中に居眠りをする学生が20～30%減少した。オンライン授業では各学生の顔がアップになるので、そのことが影響しているのではないか。(←KUISの先生からご意見があり削除)



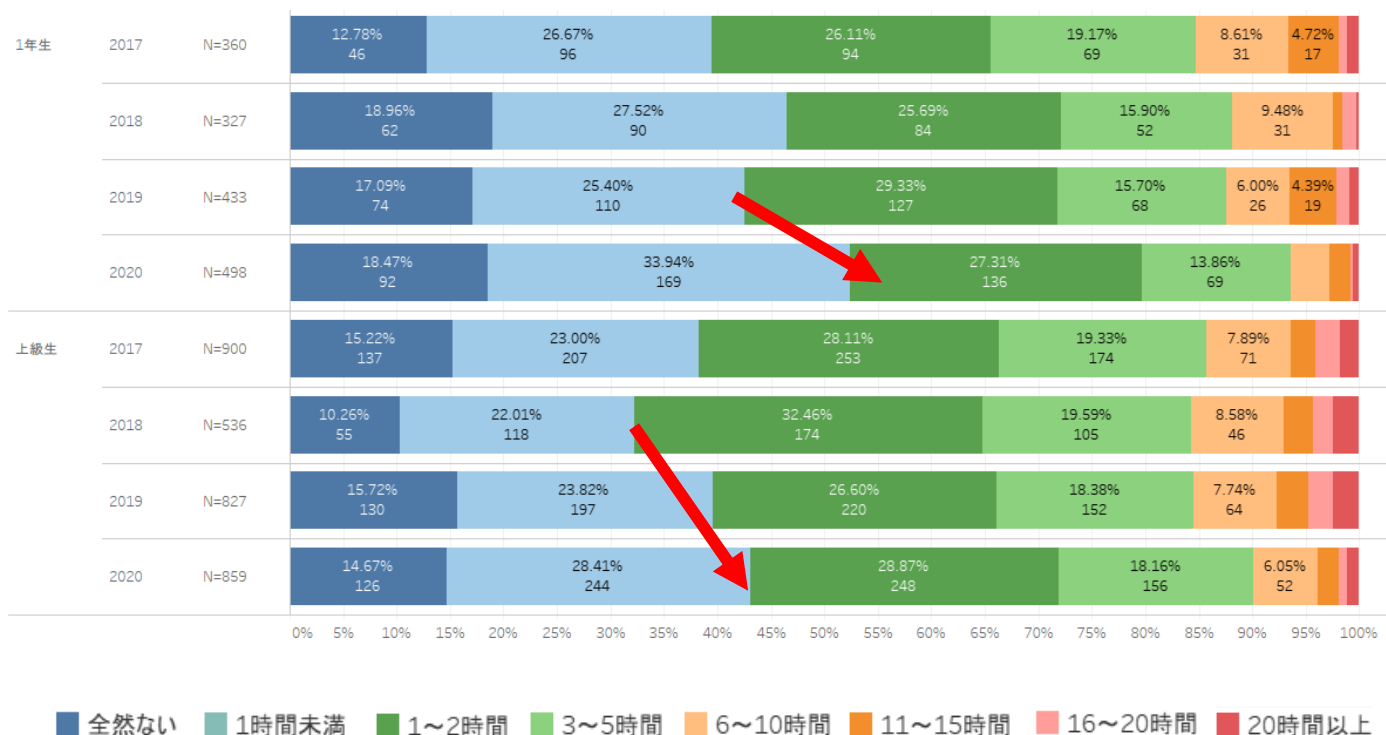
週あたりの活動時間：授業や実験に出る

⇒1年生、上級生共に、2019年から2020年は、授業に出ている時間が減少傾向。



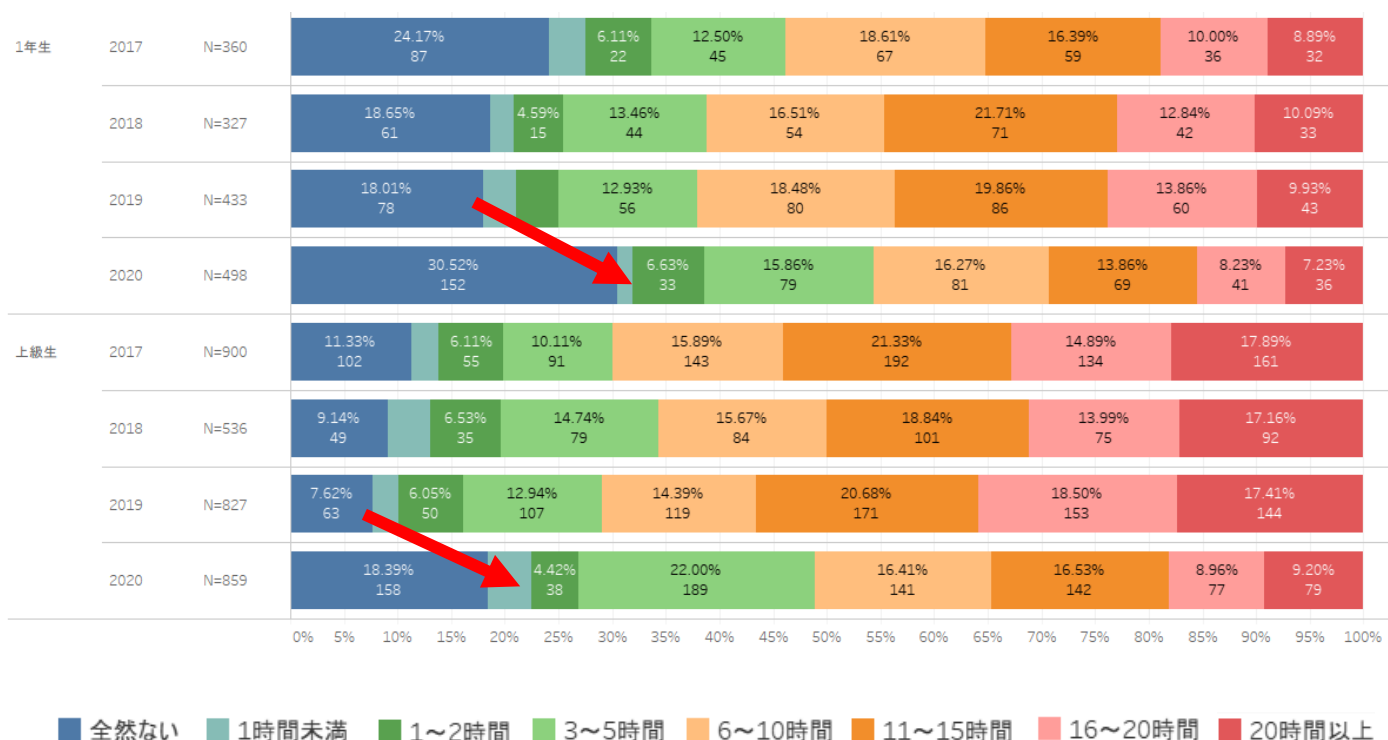
週あたりの活動時間：授業時間外に、授業に関連しない勉強をする

⇒授業に関連しない勉強をする時間は減少傾向。



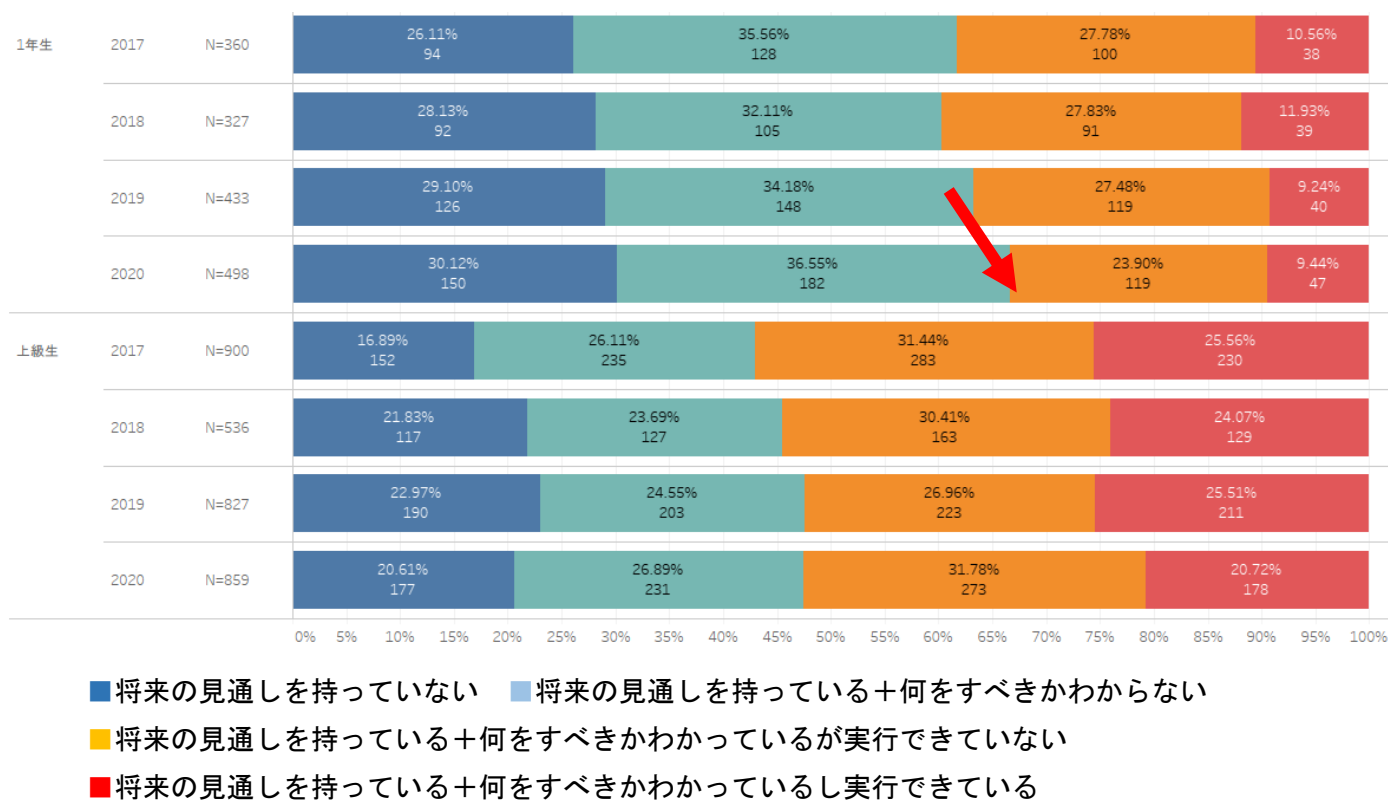
週あたりの活動時間：大学外でアルバイトや仕事をする

⇒1年生、上級生共に、2019年から2020年はアルバイトをする時間が減少。



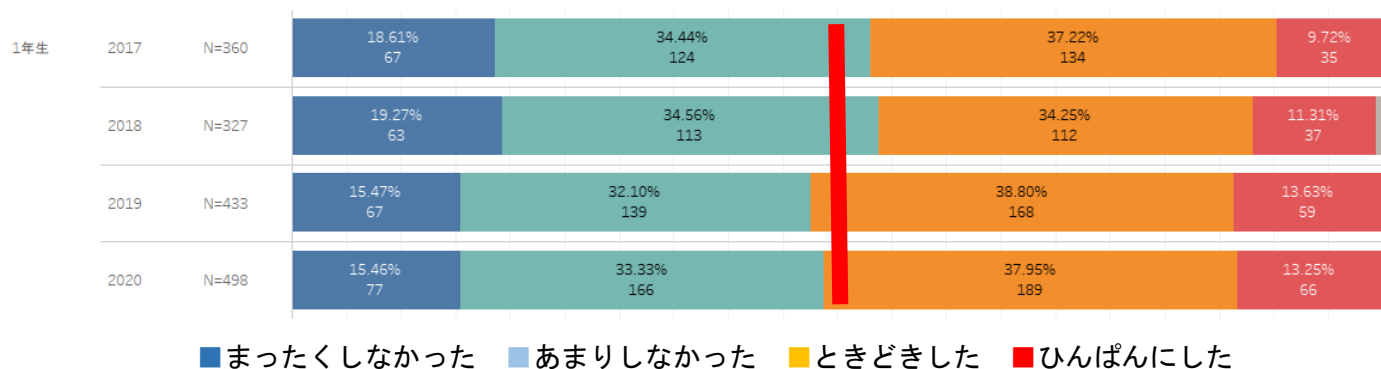
将来の見通し

⇒1年生では、2019年から2020年にかけて「将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない」と回答した学生がやや増加。



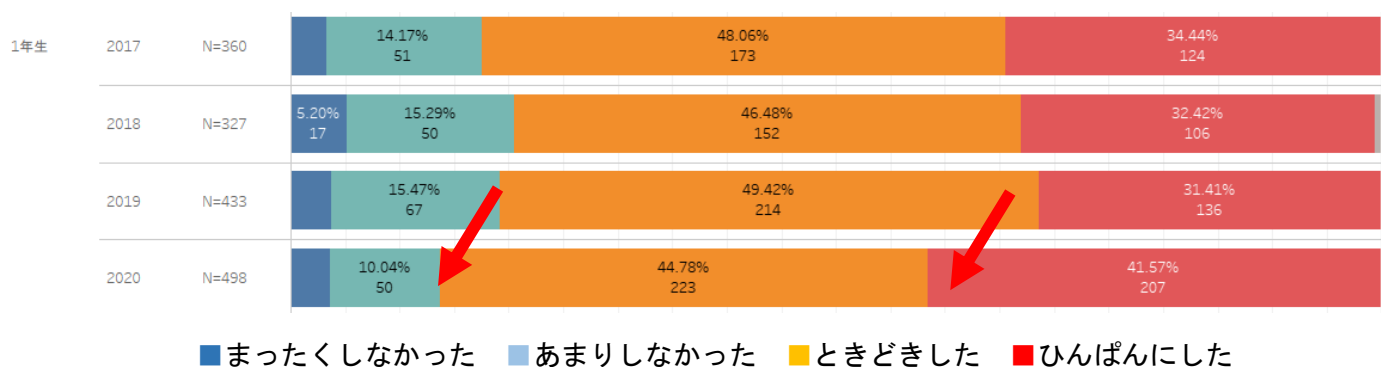
高校3年次の学習経験：授業中に質問をした

⇒高校3年次に、半数以上が授業中に質問している。



高校3年次の学習経験：自分の失敗から学んだ

⇒高校3年次の学習経験において、2019年から2020年にかけて、自分の失敗から学んだと回答した学生が増加した。



卒業時アンケート2019集計結果 (抜粋)

期 間：2020年3月16日（月）～2020年3月31日（火）

対 象：学部卒業時学生

有効回答数：137件

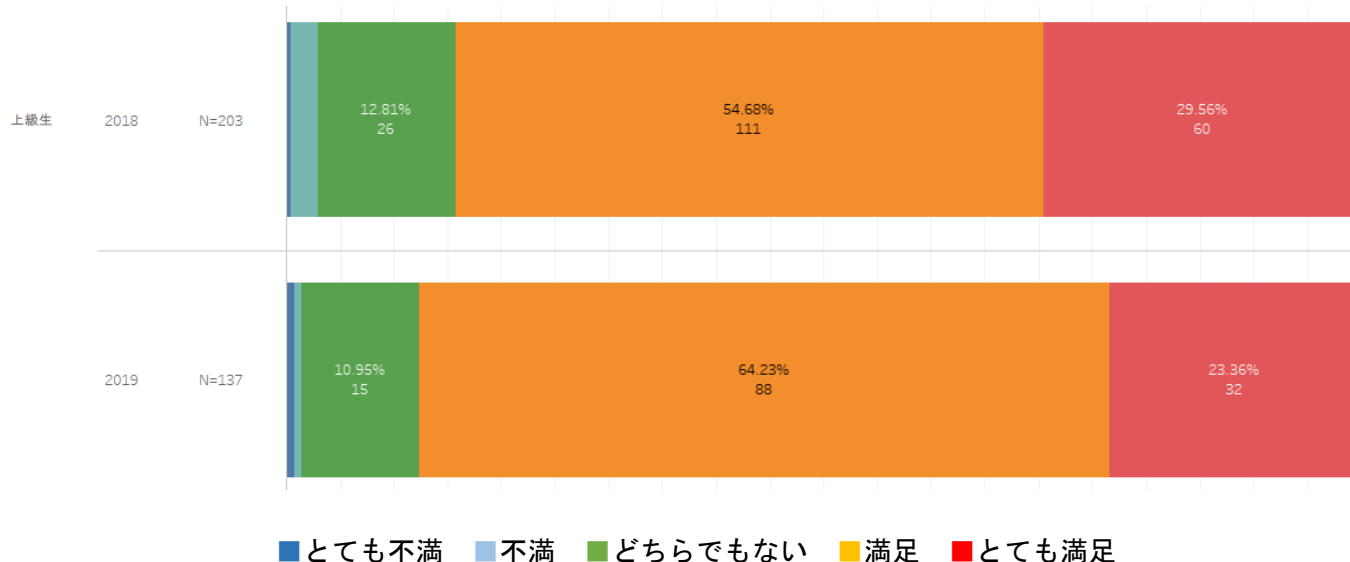
調査方法：Googleフォームを利用したWeb アンケート

回答所要時間：約5分

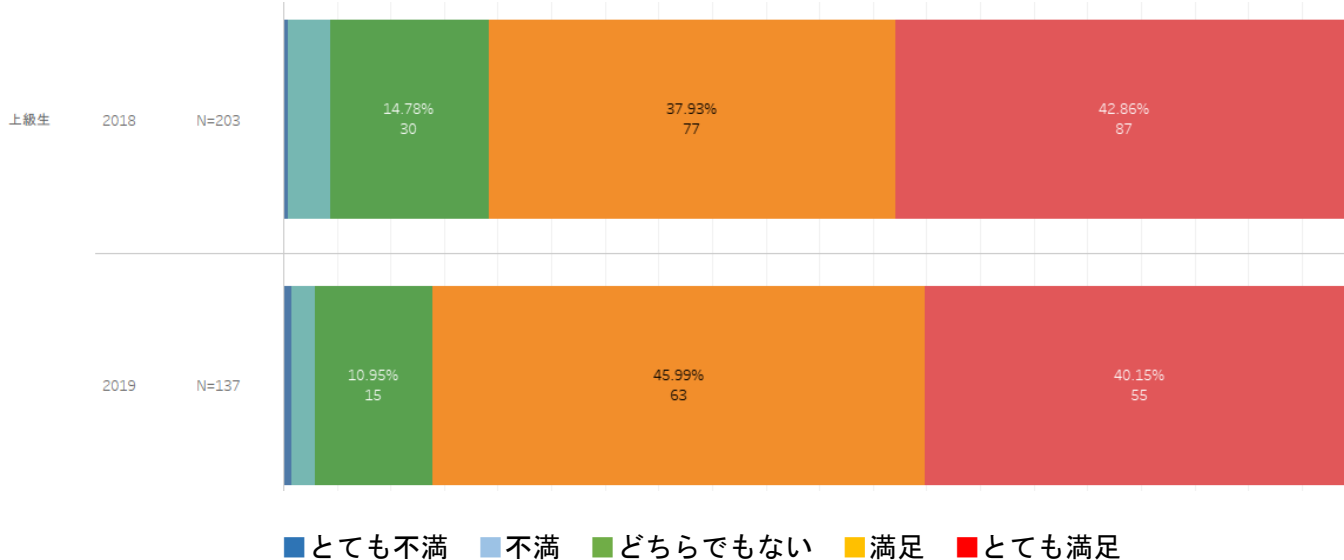
調査項目：本学独自項目（各部署からの項目も含む）

授業・学生生活・学内施設に関する満足度

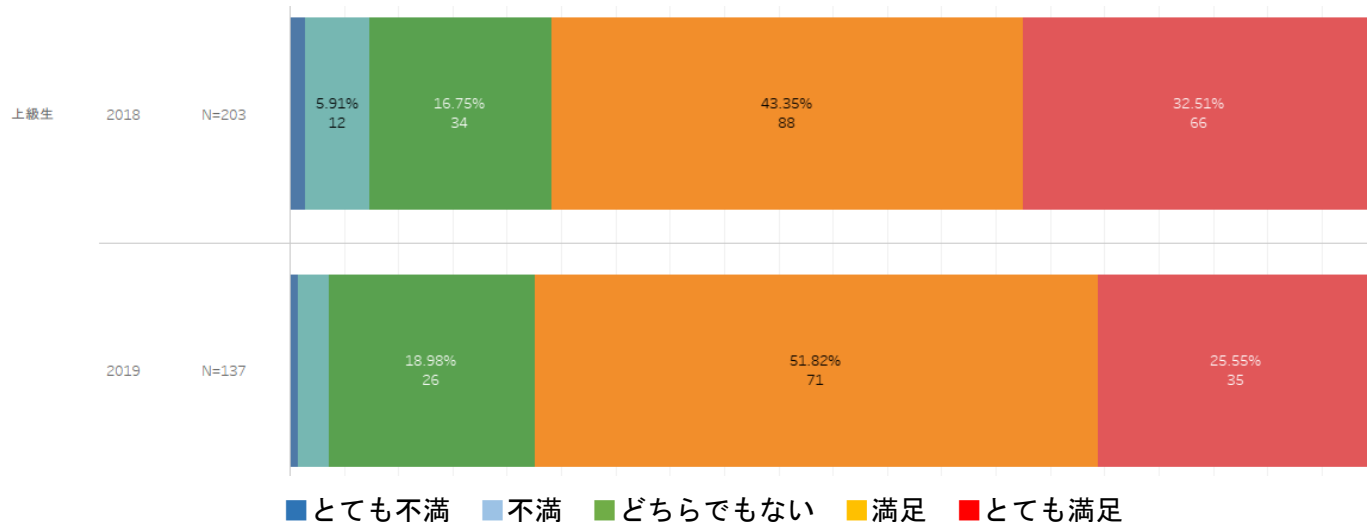
授業に関する満足度



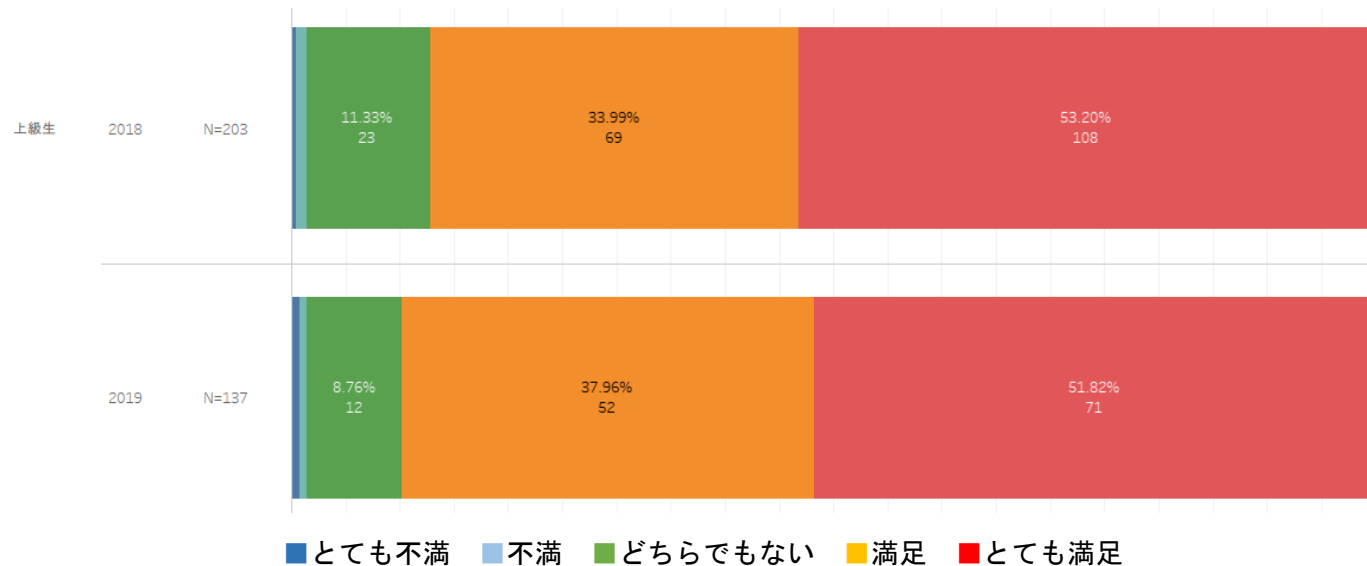
学生生活に関する満足度



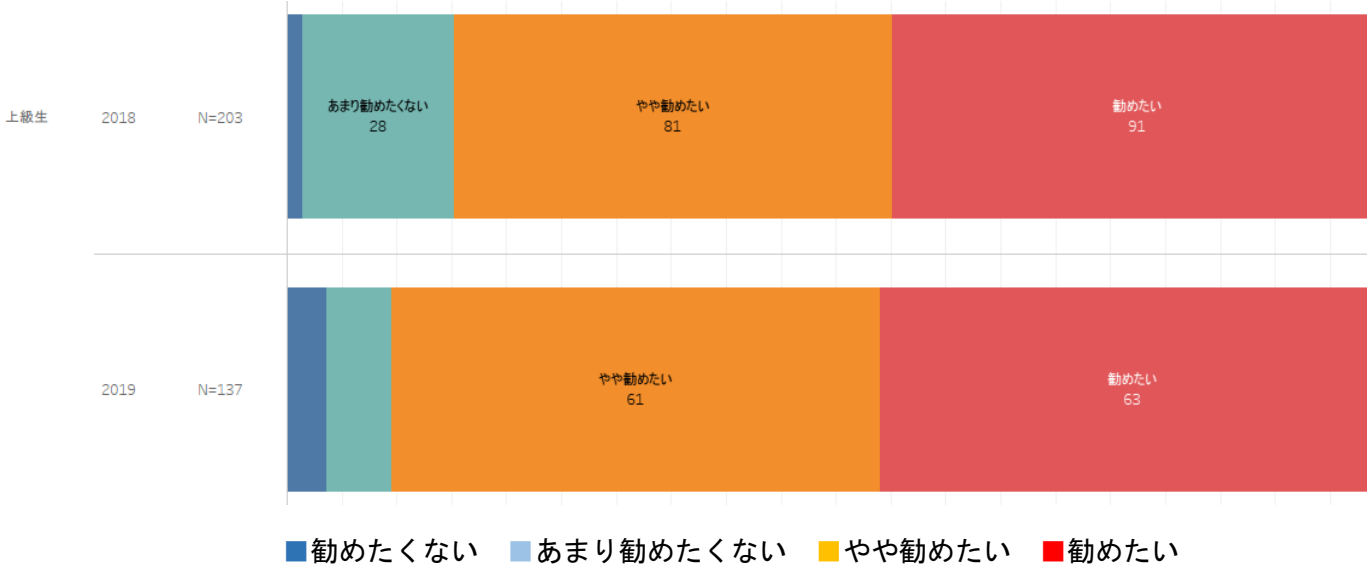
学内施設の満足度



入学してよかったか



知り合いへの推奨度



卒業生アンケート2019集計結果 (抜粋)

期 間：2020年1月11日（土）～2020年3月31日（火）

対 象：卒業生

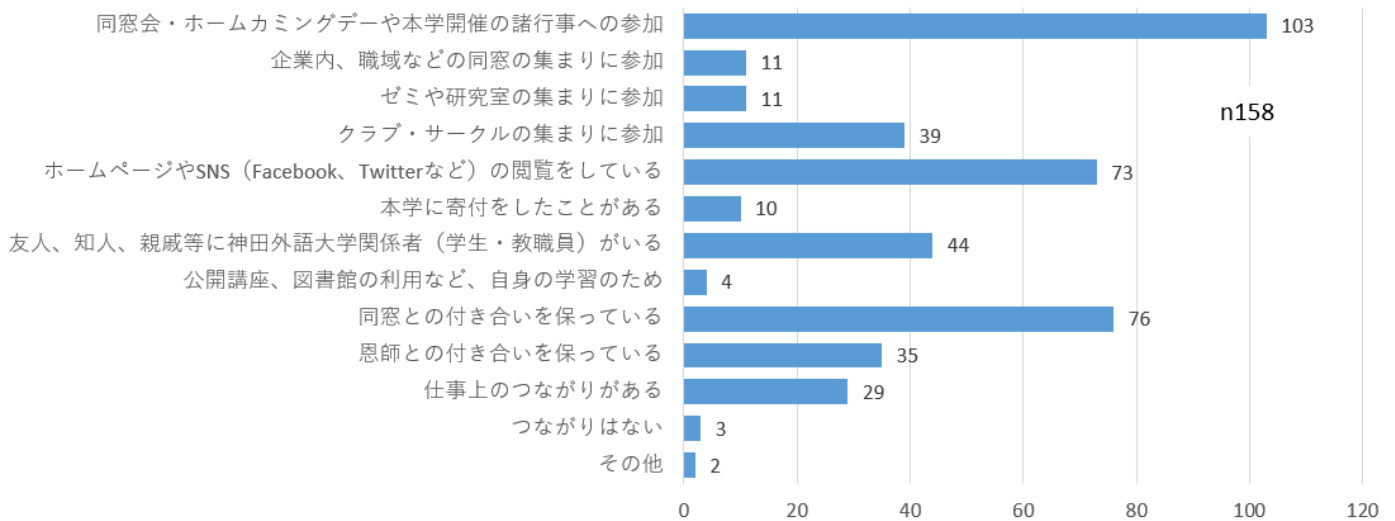
有効回答数（2月末までの集計分）：158件

調査方法：グーグルフォームを利用したWeb アンケート

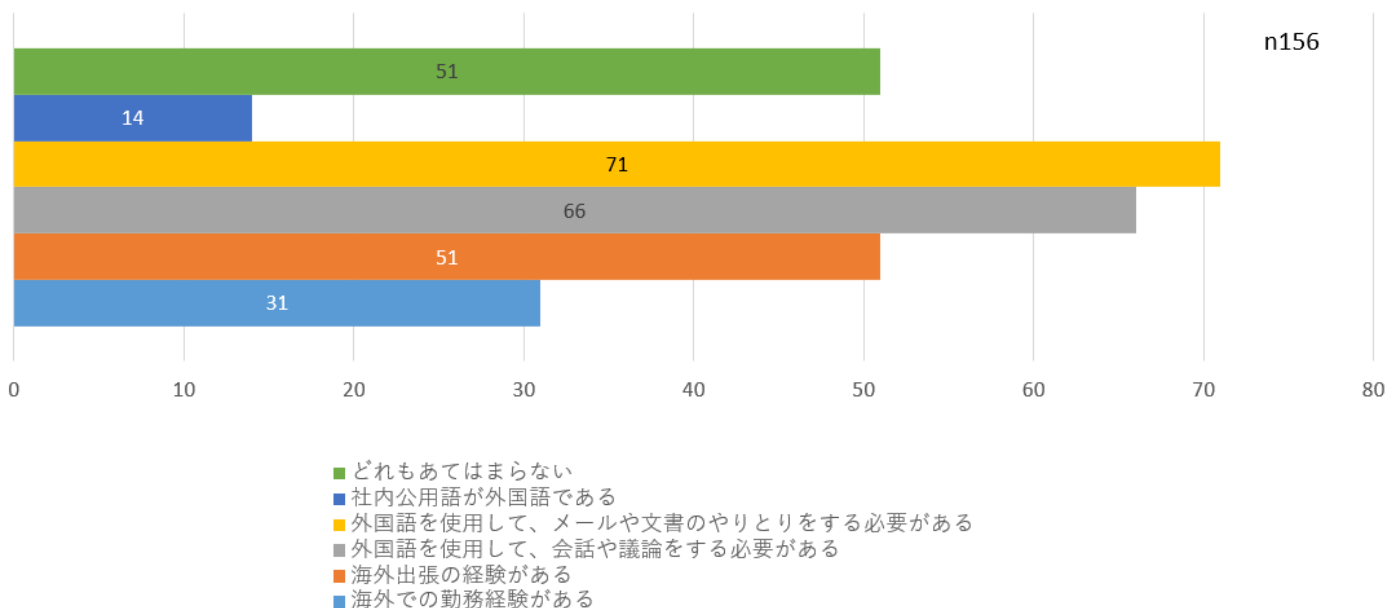
回答所要時間：約10分

調査項目：IR コンソーシアム共通、満足度（教育・研究／学生生活）、大学卒業後の仕事について、社会で求められる能力等

卒業後は本学とは、どのような繋がりがありますか。※複数回答可



海外での勤務経験や業務における外国語の使用について。※複数回答可



大学情報・機関調査研究会 (MJIR) 発表要旨

2019年12月8日、9日に開催された第8回大学情報・機関調査研究会 (MJIR) 研究集会において、本学は「学生アンケート回答率向上の取り組み事例報告」を発表しました。その要旨をここに掲載いたします。

大学情報・機関調査研究会 MJIR (Meeting on Japanese Institutional Research) とは

日本の高等教育機関および研究機関の自律的運営と、その発展に寄与する機関調査 (Institutional Research) を推進・支援する研究会。2012年より活動を開始。IRの事例紹介や研究発表を通じて、日本におけるIRの推進に寄与するとともに、経営学や統計学、情報科学など、関連する分野の研究者や実務家および教育者の人的交流の促進とネットワーク形成を図っている。

卒業時アンケートの立ち上げと、 学生行事と連動した回答率向上施策についての事例報告

高瀬雄一郎、玉造美恵、石井雅章、吉野知義、寺澤岳生、相良亜希(神田外語大学)

1. 本発表の目的

神田外語大学(以下本学)では、2018年度に卒業時アンケート(当該年度に卒業する学生を対象としたアンケート)を初めて実施した。本発表は、その卒業時アンケートが実際に行われるまでのプロセスと、学生行事と連動した回答促進施策・その成果について報告を行う。

2. 立ち上げの経緯と調査内容の考え方

2-1. 実施決定に至った経緯

本学は、一般社団法人 IR コンソーシアム(以下 IR コンソーシアム)に加盟しており、加盟校共通の在学生アンケートを2016年度より実施している(一部、本学独自の質問も加える形で実施)。加えて2018年度より、IR コンソーシアムの方針もあり、既卒生を対象としたアンケートも実施することとなった。そのことから、卒業時点にもアンケートを実施することで、大学への満足度や能力変化について時系列での分析が可能となると考え、本調査の実施を決定した。

2-2. 調査の目的と調査内容について

本調査の実施にあたり、以下の4点を目的として設定した。

- ・卒業する学生の成長実感や満足度を調査し学内に報告する。
- ・大学への満足度や能力の変化について、在学中、卒業後のアンケート結果と紐づけた分析を行う。
- ・ディプロマポリシーに対する学生の到達度を測定する。
- ・卒業する学生が自身の学生生活・学習成果を振り返る機会を創出する。

これらの目的から、本アンケートの質問内容については把握したい事項についての質問を列挙するだけでなく、「在学中・卒業後のアンケートとの連動」という点も考慮して設計された。

また、「ディプロマポリシーに対する達成度合いの測定」という視点からの設計も検討された。しかし、ポリシーの文面をアンケート項目に落とし込めるレベルに要素分解することが難しかったことに加え、項目化するのであれば、全学的な決定プロセスを経なければいけないのではないかと懸念もあり、最終的にはこの視点を調査項目の検討に持ち込むことは見送られた。

表1) 卒業時アンケートの質問項目

No.	大項目	小項目	選択肢	回答方法	在学中アンケートとの運動	卒業生アンケートとの運動
1	大学生活の満足度	授業	とても満足 満足	単一選択		○
2		授業以外の学生生活	どちらでもない 不満			
3		学内施設	とても不満			
4	卒業後の進路		日本国内で国内をターゲットにした日本企業への就職 日本国内でグローバルに展開する日本企業への就職 日本国内で外資系企業に就職 日本国内で公務員(教員を除く)として就職 日本国内で小学校教員として就職 日本国内で中、高教員として就職 国内または海外で日本語教員として就職 海外で就職 大学院進学 語学留学をする 今のところまだ決まっていない その他	単一選択	○	
5	卒業後の進路は希望通りか		希望どおり ある程度希望通り あまり希望通りではない まったく希望通りではない	単一選択		
6	大学で身についた能力	英語の運用能力	身についた やや身についた どちらともいえない あまり身につかなかった 身につかなかった	単一選択	○	○
		専攻地域言語の運用能力			○	○
		一般的な教養			○	○
		専攻言語圏に関する知識			○	○
		日本の文化に対する知識				
		主体的に考え、取り組む能力				
		分析力や問題解決能力			○	○
		批判的に考える能力			○	○
		論理的思考力				
		リーダーシップの能力			○	○
		人間関係を構築する能力			○	○
		他の人と協力して物事を遂行する能力			○	○
		異文化の人々と協力する能力			○	○
		文章表現の能力			○	○
		コミュニケーションの能力			○	○
プレゼンテーションの能力	○	○				
コンピュータの操作能力	○	○				
時間を効果的に利用する能力	○	○				
実行力						
7	学習への熱心度		かなり勉強した 勉強した あまり勉強しなかった 勉強しなかった	単一選択		
8	大学4年間で力を入れたこと		大学の勉強(授業とその予習・復習・課題を含む) 課外活動(部活動・クラブサークル) 資格・検定等の取得およびスコアアップ 留学 海外経験(留学を除く) ボランティア活動 留学生との交流 インターンシップ活動 就職活動 アルバイト 友人との交流 その他	複数選択		
9	総合満足度		とても満足 満足 どちらでもない 不満 とても不満	単一選択	○	
10	知人への推奨度		勧めたい やや勧めたい あまり勧めたくない 勧めたくない	単一選択		
11	大学への意見・要望			自由記述		

3.調査概要と回答率

本調査は以下の通り実施され、その回答率は26.1%であった。

表2) 卒業時アンケートの実施概要

対象者	2018年度卒業生
調査期間	2019年3月14日(木)～4月1日(月)
調査手法	Webアンケート
設問数	11問
想定所要時間	約5分
対象学生数	779人
回答者数	203人
回答率	26.1%
(参考) 当該年度実施の 在学生アンケートの回答率	21.5% (対象学生数4,008人/回答者数863人)

4.回答促進施策について

本アンケートの周知は、対象学生へのメール配信によって行われた。また、それに加えて、2019年3月16日(土)に行われた学生行事「卒業パーティー」と連動した回答促進も行われた。

4-1.メールによる回答促進

調査開始日にあたる3月14日(木)に、全対象者に回答依頼のメールを送信した。その後、3月16日(土)の卒業式終了から卒業パーティー開始までの時間帯に、未回答者に対して再度メール配信を行った。

4-2.学生行事と連動した回答促進施策検討の経緯とその内容

本アンケートの実施を決めた当初より、回答を促す周知をメールで行うことは決まっていた。しかし、卒業間際というタイミングから、大学からのメールをあまり確認しなくなっている学生も多くいることが想定されたため、それ以外の施策、特に学生に対面でアプローチできるものを検討することとなった。

検討においては、ほとんどの卒業生が参加する卒業式の最中や、式終了後に必要書類等を渡す窓口(式に参加した全学生が訪れる)での施策案も挙げたが、全学行事である卒業式の円滑な運営が損なわれるリスクを考慮し見送った。そして、次に多くの卒業生が集まる卒業パーティーにて施策を行うこととした。

卒業パーティーで施策を行うことを決めた背景としては、本アンケートを担当する本学IR推進室のメンバーの中に、卒業パーティーの担当部署である学生課と兼務の者がおり、他部署に大きな負担をかけずに実施することができたということも挙げられる。

4-3.卒業パーティーについて

卒業パーティーは、本学の卒業式実施後、卒業生と教職員を対象に毎年行われている。学生自治組織「卒業パーティー委員会」の主催により行われており、学生課がその顧問となっている。パーティーへの参加は任意(会費制)で、2018年度の参加学生数は375人(卒業生の48.1%)であった。

会の中では、来賓からの祝辞、学生サークルの後輩によるパフォーマンスなどに加え、参加した卒業生を対象として景品が当たる抽選会も行われる。

IR 推進室での検討の結果、今回はその抽選会においてアンケート回答者の中から当選する景品を用意し、当日はパーティーの開会前からアナウンス等で周知することで回答促進を行うこととした。

4-4. 学生の協力

その後、「卒業パーティー委員会」の学生と打ち合わせを行い、施策は了承された。そして、以下の2点について学生からの協力を得られることとなった。

①景品の提案

過去の抽選会で人気があり、かつ今回は景品として出す予定がないものについて、学生側でリストアップが行われ提案があった。IR 推進室はその中から予算もふまえて検討を行い、学生からはなるべく当選人数が多くなるようにしてほしいとの要望もあったことから、「TOHO シネマズギフトカード 3,000 円分」(全国の TOHO シネマズで好きな映画が見られる金券)を 10 本出すこととした。

②パーティー当日の周知

パーティーの開場から開会までの間、会場の大型スクリーンにアンケートサイトとリンクした QR コードを表示。抽選会において「アンケート回答者賞」がある旨複数回アナウンスを入れ、パーティー中も、回答締め切り時間の直前にアナウンスを入れてもらうこととなった。

表 3) 卒業パーティーのタイムテーブル (抽選会まで) とアンケートの周知

時間	全体の流れ(網掛け太字は回答促進)	職員の動き
14:30	開場	
	会場内スクリーンへの QR コード表示 回答を促すアナウンス	会場入り
15:45	開会 / 来賓等挨拶	
16:05~16:20	学生サークルによるパフォーマンス①②	
	アンケートは 16:30 に締め切る旨アナウンス	
16:21~16:28	学生サークルによるパフォーマンス③	
	最終アナウンス→回答締め切り	抽選
16:30~17:00	抽選会(アンケート回答者賞は最後)	

4-5. パーティー当日の様子

当日は、IR 推進室の職員 2 名がノート PC を持参して会場で待機。回答締め切り後、抽選を行うことができる web サイトを活用して速やかに抽選を行った。アンケートの最後に、卒業パーティーに参加予定かどうかを聞く質問を入れていたため、抽選は参加予定となっていた回答者の中から行った。アンケートの回答では参加予定としていても、当日何らかの事情で来ていない学生もいる可能性を考慮し、当選者数 10 名に対して抽選では 15 名抽出し、司会の学生に当選者リストを渡した。

5. 卒業パーティーと連動した回答促進施策の効果

本アンケート回答期間中の回答者数の推移を以下に示す。

図1) アンケート回答者数の日別推移

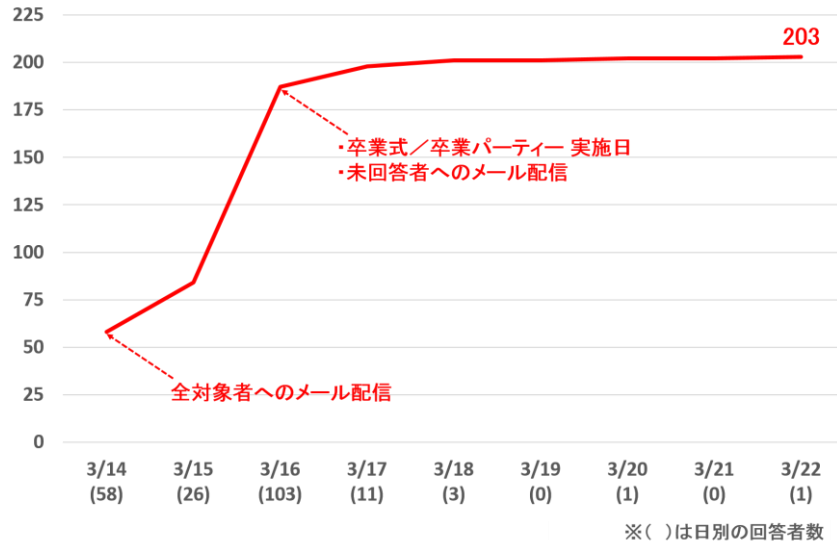
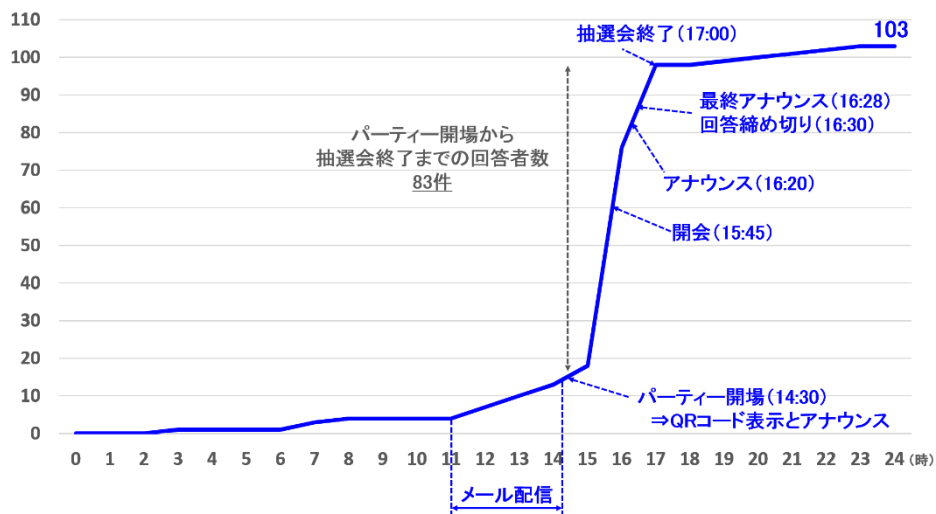


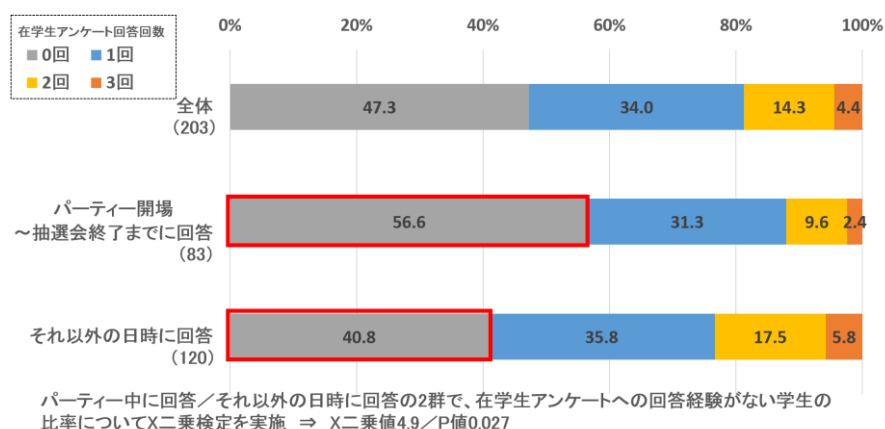
図2) 3月16日の回答者の時間別推移



回答総数 203 件のうち、約半数にあたる 103 件が、卒業式・卒業パーティーが実施された 3 月 16 日の回答であった。その中の約 8 割、全体の約 4 割にあたる 83 件が、卒業パーティーの開場から抽選会終了まで（以下パーティー中）に回答されたものであったことから、この施策は大きな効果があったと言える。

また今回の施策は、これまでこのような学生を対象としたアンケートに回答したことがない学生の参加を得られたという点においても効果が見られた。以下の図は、今回のアンケートの回答者が、在学中に 3 度（2016 年より年 1 回ずつ）行われている在学生アンケートにどれくらい回答していたかを示したものである。

図3) 卒業時アンケート回答者の、在学アンケート回答状況



パーティー中に回答を行った学生群には、それ以外の学生群に比べて在学アンケート回答経験がない者が多く含まれていることが分かった (X 二乗値 4.9/P 値 0.027)。在学アンケートにおいては、回答促進はメールや学生ポータルサイトといったオンラインの施策と学内掲示物を中心に行われていた。今回の卒業パーティーと連動した回答促進は、そういった施策では獲得しきれなかった学生に対して特に有効に作用したと考えられる。

6.在学アンケートとの紐づけが可能なデータ数

2-2でも述べた通り、本アンケートは「在学中・卒業後のアンケートとの連動」という点も目的として設定していた。そこで、今回の回答者のうち、各年度の在学アンケートにも回答していた人数を調べたところ、以下の通りであった。

表4) 卒業時アンケート回答者203名のうちの、在学アンケート回答者数

2016年度	2017年度	2018年度	いずれか回答
31 (15.3%)	74 (36.5%)	49 (24.1%)	107 (52.7%)

卒業時アンケートと在学アンケート両方に回答している学生の数を増やし、より精度の高い分析を行っていくためには、それぞれのアンケートでの回答率向上が必要となる。今回の卒業時アンケートにおいて、対面での周知により従来の施策では回答に至っていなかった学生を獲得できることが分かったことを活かし、在学アンケートにおいてもそういった視点での回答促進が行われることは、その一助となると考えられる。

IR 推進室主な活動記録 (2019 年度)

4 月 教職員対象 IR 分析報告会 「2018 年度 卒業時アンケート報告会」 前年度卒業時アンケート結果集計・分析作業	10 月 第 3 回大学認証評価実地調査データ問合せ対応 在学生アンケート 2018 教職員対象結果報告会 卒業生アンケート調査 2019 実施
5 月 大学 IR コンソーシアム IRiS システム 前年 2018 年度「学生情報データ」(5 月) 登録作業 第 3 回大学認証評価データ収集	11 月 在学生アンケート 2019 回答者プレゼント抽選 全国学生調査 2019 (文科省) 実施
6 月 大学 IR コンソーシアム 定時正会員総会出席 前年度卒業生アンケート結果集計・分析作業	12 月 大学 IR コンソーシアム データ登録講習会参加 Tableau データ分析講習会参加
7 月 在学生アンケート準備作業	1 月 THE 世界大学ランキング日本版データ登録作業
8 月 大学 IR コンソーシアム新システム” IRiS” 説明会 大学 IR コンソーシアム・日本 IR 協会合同シンポジウム参加	2 月 大学 IR コンソーシアム IRiS システム 2019 年度「共通調査データ」(2 月) 登録作業
9 月 在学生アンケート調査 2019 実施 (9/12~11/1) 神田外語大学 IR 年次報告書刊行 私立大学等改革総合支援事業、教育の質に係る客観的指標 (文科省) IR 関係データ作業	3 月 卒業時アンケート調査 2019 実施 (回答者プレゼント抽選作業)

<IR 推進室メンバー (2019 年 3 月 31 日現在) >

室長・専任 玉造 美恵
 教員・兼任 石井 雅章 准教授 (言語メディア教育研究センター センター長)
 次長・兼任 吉野 知義 (教務部次長、図書館課長)
 主任・兼任 相良 亜希 (広報部、大学改革室)
 主任・兼任 高瀬 雄一郎 (学生課)
 主任・専任 寺澤 岳生 (2019 年 4 月より IR 推進室)

<学長室 IR 推進チーム (2020 年 4 月 1 日より) >

シニアマネージャー・専任 村田 裕司
 専任 寺澤 岳生

発行 : 2020 年 12 月 神田外語大学 学長室 IR 推進チーム
 執筆(編集) : 寺澤 岳生・村田 裕司、 校正(校閲) : 高瀬 雄一郎、 装丁(デザイン) : 寺澤 岳生